

□ 主な内容

【2015 年度の温室効果ガス排出量が発表されました！】

環境省では、2015 年度の温室効果ガス排出量 (速報値) をとりまとめました。運輸部門は 2 億 1,600 万トンで前年度比 1.8% 減となっています。

<http://www.env.go.jp/press/103321.html>

【第 12 回地域バス交通活性化セミナーの参加者募集中！】

1 月 20 日 (金) に会津若松市で第 12 回地域バス交通活性化セミナーを開催します。皆様からのご参加をお待ちしています。

[http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/12th\\_seminar.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/12th_seminar.html)

□ 目次

1. 寄稿 (1) 「環境的に持続可能な交通を目指して」 (第 125 回)

● 「過剰適応と EST」

【公益財団法人豊田都市交通研究所 西堀 泰英】

2. 寄稿 (2) 「地方から全国に向けた情報発信！」 (第 125 回)

● 「上田電鉄別所線の環境に配慮した活性化の取り組み」

【上田電鉄株式会社 常務取締役管理部長 関 高】

3. ニュース／トピック

● 改正物流総合効率化法に基づく総合効率化計画の認定について【国土交通省】

● 平成 28 年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰について【国土交通省】

● 平成 28 年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰の受賞者決定について【国土交通省、経済産業省】

● 平成 28 年度「モーダルシフト等推進事業補助金」の認定及び交付決定について【国土交通省】

● 道路空間を活用したカーシェアリング社会実験【国土交通省】

● 国土交通省自動運転戦略本部の開催について【国土交通省】

● 2015 年度 (平成 27 年度) の温室効果ガス排出量 (速報値) について【環境省】

● バスの乗り方教室の開催について【中国運輸局】

● 平成 29 年度モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) 実施自治体の募集【エコモ財団】

● 公共交通のあり方検討について【豊中市】

- 公演期間中の CO<sub>2</sub>カーボン・オフセットについて【阪急電鉄株式会社】
- 2016 年全国カーライフ実態調査結果について【ソニー損害保険株式会社】
- クリーン燃料基準の策定について【カナダ環境・気候変動省】

#### 4. イベント情報

- 第 12 回地域バス交通活性化セミナー【2017/1/20】
- 地球温暖化への適応に向けて【2017/1/19-2017/1/24】
- さっぽろエコドライブ活動セミナー【2017/1/30】
- すいた環境教育フェスタ【2017/2/4】
- エコドライブセミナー 千葉県【2017/2/8】
- エコドライブ講習会 愛知県【2017/2/13】
- 低炭素杯 2017【2017/2/16】
- 全国バスマップサミット in 横浜【2017/2/18、2017/2/19】
- 第 17 回可児市環境フェスタ【2017/2/26】

#### 5. その他

- EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

---

---

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 125 回)

●「過剰適応と EST」

【公益財団法人豊田都市交通研究所 西堀 泰英】

「失敗の本質」(中公文庫)という本が売れているそうです。私も先日購入したものの、パラパラとページをめくっただけでまだツンドク状態です。それはともかく、この本のあとがきにある指摘の中には、環境的に持続可能な交通(あるいは都市)についても言えることがあると感じました。

この本は、旧日本軍の組織論を題材として敗戦に至った原因を研究した成果です。原因の一つに組織の「過剰適応」があげられています。過去の成功体験(例えば日露戦争)に過剰に適応し、組織としての自己革新能力を持つことができなかつたことを指摘しています。ちなみに機械学習や統計学の分野でも「過学習」という言葉があります。教師データを学習できていても、未知データには適合できない状態という意味で同様の考え方と思います。

EST について考えてみます。自動車は今の社会になくてはならない乗り物です。自動車は私たちの暮らしを便利なものにしました。その自動車は、自動車もたらす高いモビリティを利用できる者が快適で便利な暮らしを実現できる都市や地域を、それまでの都市の範囲を飛び出して作り上げることを可能にしました。新たに開発された低密度なエリアに居住し始めた人たちが、居住地選択の際に公共交通での移動を前提としていたとは考えにくいでしょう。そして、都市の低密化は以前からも指摘されていますが、私の身近での肌感覚としては、この流れは今でも確実に進行しているようです。都市や地域の人口減少を抑制しようという号令のもと、比較的安価で供給できる新たな住宅開発が少なからず行われています。

話を過剰適応に戻します。私は、今の社会は自動車もたらした成功体験に過剰に適応していると感じています。自動車は私たちの暮らしを豊かで快適で便利なものにし、居住可能エリアを拡大したことで、都市における人口(居住)の受け皿を供給してきました。しかしそのモデル(成功体験)に社会が過剰に適応した結果、交通に起因する環境負荷の増加、公共交通不便地域の拡大、インフラ維持管理コストの増大、中心市街地の空洞化等様々な綻びを生み出したと言えるでしょう。

このような認識から、都市交通の分野ではパラダイムシフトが起こっています。10 年前の 2006 年に創刊されたこの EST のメルマガをはじめ、それ以前からも様々な取組がなされてきました。しかし、従来の成功体験に過剰適応した社会の自己革新能力が、十分に発揮されるまでには至っていないのが現状ではないでしょうか。

今では、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方が広がり、各地で立地適正化計画および地域公共交通網形成計画の策定が進んでいます。足元では従来モデルからの脱却はできていませんが、新たなモデルに変わることが待たれます。その兆しでしょうか、公共交通利用者数が底を打って増加し始めているという報告が様々なレベルで聞こえてくるようになりました。薄日が差し始めたと言える今の流れを止めることのないよう、そして将来の世代に「あの時代は失敗だった」と言われることがないよう、EST の活動をつないでいくことが重要と考えます。

---

## 2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 125 回)

### ●「上田電鉄別所線の環境に配慮した活性化の取組み」

【上田電鉄株式会社 常務取締役管理部長 関 高】

別所線(長野県上田市:上田駅～別所温泉駅 11.6km)は、モータリゼーションの進展や施設の老朽化の影響を受け、輸送人員が減少し廃線の危機となりましたが、地域からの存続の機運が高まり、国、長野県、上田市の後押しもあって公的支援を受けての存続が決定、平成 17 年 10 月に上田交通株式会社より鉄道部門を分社化し、上田電鉄株式会社別所線となりました。

分社化以来、公的資金や親会社である東京急行電鉄株式会社の支援も受け、鉄道車両やコンクリート枕木のリユースを実施し、産業廃棄物削減に結び付けるだけでなく、リユースした鉄道車両に様々なラッピングを施し、環境活動や利用促進に活用しています。平成 19 年度より東京急行電鉄で活躍していたVVVF車の 1000 系を導入、平成 26 年度まで 5 編成を導入しており、その全ての車両にラッピングを施しております。2 編成は地元長野県出身の画家原田泰治先生のデザインによる「自然と友だち号」であり、正にデザイン・名称とも環境保全を呼びかけるものとなっております。その他、地元真田幸村公を意識した赤備えの「さなだどりーむ号」や NHK 大河ドラマ「真田丸」ラッピング電車も運行しており、観光のお客様についても公共交通を利用していただくための誘因としております。

また、パーク&ライドの整備やレンタサイクルの整備など公共交通利用促進や CO<sub>2</sub>削減の取組みも行っております。平成 27 年度では、パーク&ライドで年間約 15,700 台の利用があり、CO<sub>2</sub>約 46tの削減をしております。

更に、沿線の企業や地域の皆様と連携した植栽・緑化活動や清掃活動の実施、「すず虫プレゼント」等環境保全イベントの開催も実施しており、沿線の環境保全に努めております。また、そういった環境保全活動を通し、従業員への意識向上も図っております。

そのような取組みの結果、地方鉄道の輸送人員が減少傾向の中、別所線の輸送人員は平成 23 年度は 117 万 6 千人でしたが、平成 24 年から前年度比で増加に転じ、平成 27 年度は 129 万 9 千人まで増加している状況となっております。今後も今まで実施してきた環境に配慮した様々な取組みを継続していくとともに、更なる沿線の活性化および公共交通利用促進に向けた施策を実施していきたいと考えております。

---

### 3. ニュース／トピック

#### ●改正物流総合効率化法に基づく総合効率化計画の認定について【国土交通省】

国土交通省では、物流分野における省力化・効率化・環境負荷低減を推進しており、申請があった総合効率化計画3件について、トラック輸送から鉄道又は海上輸送にモーダルシフトする取組みとして、改正物流総合効率化法の規定により認定しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01\\_hh\\_000285.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000285.html)

#### ●平成28年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰について【国土交通省】

国土交通省では、12月15日(木)に交通に関する環境保全活動に積極的に取り組み、顕著な功績のあった企業、自治体に対し、交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰を行いました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo03\\_hh\\_000184.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo03_hh_000184.html)

#### ●平成28年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰の受賞者決定について【国土交通省、経済産業省】

国土交通省、経済産業省では、12月14日(水)に「第15回グリーン物流パートナーシップ会議」を開催し、物流分野における地球温暖化対策に功績のあった事業者に対し、その功績を表彰しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01\\_hh\\_000288.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000288.html)

<http://www.meti.go.jp/press/2016/12/20161208002/20161208002.html>

#### ●平成28年度「モーダルシフト等推進事業補助金」の認定及び交付決定について【国土交通省】

国土交通省では、総合効率化計画の策定やモーダルシフト等の取組みを支援する「モーダルシフト等推進事業補助金」について、7件の案件を認定したことを発表しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01\\_hh\\_000287.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000287.html)

#### ●道路空間を活用したカーシェアリング社会実験【国土交通省】

国土交通省は、地下鉄駅に近接した箇所に、道路上のカーシェアリングステーションを設置し、公共交通とカーシェアリングの連携強化による公共交通の利用促進の可能性を検証する社会実験を開始したことを発表しました。実験車両にはCOMS等の小型モビリティが使用され、ワンウェイトリップ方式にて運営されています。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/road01\\_hh\\_000779.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000779.html)

●国土交通省自動運転戦略本部の開催について【国土交通省】

国土交通省は、交通事故の削減や少子高齢化による公共交通の衰退等への対応、渋滞の緩和等への効果が期待される自動車の自動運転について、省内に国土交通省自動運転戦略本部を設置し、自動運転の実現に向けて取組みを推進していくことを発表しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07\\_hh\\_000235.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07_hh_000235.html)

●2015年度(平成27年度)の温室効果ガス排出量(速報値)について【環境省】

環境省は、2015年度(平成27年度)の温室効果ガス排出量(速報値)をとりまとめました。2015年度の温室効果ガスの総排出量は13億2,100万トン(二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)換算)で、前年度比3.0%減(2013年度比6.0%減、2005年度比5.2%減)でした。尚、運輸部門は2億1,600万トンで前年度比1.8%減となっています。

<http://www.env.go.jp/press/103321.html>

●バスの乗り方教室の開催について【中国運輸局】

中国運輸局は、地域のバス路線を守るために、バス事業者やバス協会、自治体等と連携して公共交通利用促進に取り組んでいる「あさひが丘連合自治体」において、バスの乗り方教室を開催しました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/release/16120802.html>

●平成29年度モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)実施自治体の募集【エコモ財団】

エコモ財団では、MM教育の普及を図るため、継続的に実施される拠点づくりを目的とした自治体や学校へ支援する他、指針となる教育宣言の発行や教員向けテキストの出版、などを行っています。平成29年3月11日まで、小学校におけるMM教育の継続的な実施のための仕組みづくりを目指す取組みを募集しています。

[http://www.mm-education.jp/jititai\\_sien.html](http://www.mm-education.jp/jititai_sien.html)

●公共交通のあり方検討について【豊中市】

豊中市では、公共交通の現状や問題点・課題を整理し、公共交通のめざすべき姿に資する基本的な考え方を明らかにした「公共交通あり方検討報告書」を公表しました。

<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/kurashi/kotsuanzen/kotsutaisaku/20161212103359487.html>

●公演期間中の CO<sub>2</sub>カーボン・オフセットについて【阪急電鉄株式会社】

阪急電鉄株式会社は、政府が運用する温室効果ガス排出削減の認証制度「J-クレジット制度」を活用した、「宝塚大劇場カーボン・オフセット公演」を開催し、期間中に排出されるすべての CO<sub>2</sub>をカーボン・オフセットすることを発表しました。

<http://www.mintetsu.or.jp/activity/eco.html>

●2016 年全国カーライフ実態調査結果について【ソニー損害保険株式会社】

ソニー損害保険株式会社は、2016 年 9 月 13 日から 14 日の 2 日間、自家用車を所有し、月に 1 回以上車を運転する 18 歳～59 歳の男女に対し、「全国カーライフ実態調査」をインターネットリサーチで実施しました。現在主に運転している車のエンジンタイプは、ガソリン車が 87.1%、HV8.6%、クリーンディーゼル車(CDV)1.0%、プラグインハイブリット車(PHV) 0.3%、電気自動車 0.3%となりました。

[http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2016/11/20161128\\_01.html](http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2016/11/20161128_01.html)

●クリーン燃料基準の策定について【カナダ環境・気候変動省】

カナダ環境・気候変動省は、カナダ政府がカナダ環境保護法の下、クリーン燃料基準を策定するため州や準州、産業界等と協議すると発表しました。2030 年までに年間 30 メガトン（車両約 700 万台分）の温室効果ガス排出量削減を達成し、2005 年比 30%という削減公約を実現することを目的としています。

[http://news.gc.ca/web/article-en.do?nid=1160579&tp=930&\\_ga=1.266809420.393408798.1467775665](http://news.gc.ca/web/article-en.do?nid=1160579&tp=930&_ga=1.266809420.393408798.1467775665)

---

#### 4. イベント情報

●第12回 地域バス交通活性化セミナー

日時:2017年1月20日(金)13:30~16:50

場所:会津若松市文化センター「文化ホール」

主催:会津若松市、東北運輸局、エコモ財団

[http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/12th\\_seminar.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/12th_seminar.html)

●地球温暖化への適応に向けて

日時:(1日目)2017年1月19日(木)14:00~16:30

(2日目)2017年1月24日(火)14:00~17:25

場所:(1日目)ワークピア広島

(2日目)都道府県会館

主催:国土交通省

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10\\_hh\\_000138.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000138.html)

●さっぽろエコドライブ活動セミナー

日時:2017年1月30日(月)14:00~16:00

場所:札幌エルプラザ4F 大研修室

主催:札幌市環境局

[http://www.city.sapporo.jp/kankyo/zidousya\\_kankyo/ecodrive.html](http://www.city.sapporo.jp/kankyo/zidousya_kankyo/ecodrive.html)

●すいた環境教育フェスタ

日時:2017年2月4日(土)10:30~15:30

場所:吹田市文化会館 メインアター

主催:吹田市

[http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-kankyo/kankyoseisaku/esd/\\_82408.html](http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-kankyo/kankyoseisaku/esd/_82408.html)

●エコドライブセミナー 千葉県

日時:2017年2月8日13:30~16:30

場所:千葉県自治会館

主催:九都県市首脳会議、千葉県、千葉市

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/press/2016/ecodrive-seminar.html>

●エコドライブ講習会 愛知県

日時:2017年2月13日(月)13:00~16:30

場所:中部トラック総合研修センター

主催:愛知県、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)愛知支部

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/ecodrive20170213.html>

●低炭素杯 2017

日時:2017年2月16日(木)10:00~17:00

場所:日経ホール

主催:低炭素杯 2017 実行委員会

<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>

●全国バスマップサミット in 横浜

日時:(1日目)2017年2月18日(土)11:30~18:30

(2日目)2017年2月19日(日)10:00~12:00

場所:(1日目)横浜にぎわい座

(2日目)吉野町市民プラザ

主催:全国バスマップサミット実行委員会

[http://www.rosenzu.com/busmap/summit\\_yokohama.html](http://www.rosenzu.com/busmap/summit_yokohama.html)

●第17回可児市環境フェスタ

日時:2017年2月26日(日)9:00~15:30

場所:広見公民館ゆとりピア

主催:環境パートナーシップ可児

<http://www.city.kani.lg.jp/11580.htm>

---

## 5. その他

- EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！  
2013年7月16日から募集を開始し、37団体が参加しています。  
会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。  
[http://www.estfukyu.jp/partnership\\_gaiyo.html](http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html)

- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！  
<https://twitter.com/officeEST>

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ  
<http://www.green-m.jp/>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！  
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！  
配信申込はこちらから  
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！  
[http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon\\_offset/carbonoffset\\_system.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html)

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: [magazine@ecomor.jp](mailto:magazine@ecomor.jp) (担当: 熊井)

---

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局  
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

[https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail\\_ecomo](https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo)

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>